

点描ぐんま経済

日銀支店長

見聞録

■119■

日銀前橋支店では、県内経済を把握するために企業を訪問して面談で調査を行っている。統計データでは十分把握できない経済の実態を知ることができる貴重な機会だ。

訪問前には、その企業や業界について予習しているが、専門分野の知識が足りないと感じる場面も多い。このため、業界の動向を知る機会があれば積極的に参加するようになっている。

先月は製造業に関する二つのイベントに参加した。一つは県産業支援機構が太田市で開いたEV（電気自動車）の分解展

群馬のものづくり

示・説明会。実際のEVを分解した数千点にも及ぶ部品を見て触って、詳しい説明を聞いた。EVは単にエンジンが

担い手の技術と情熱

モーターに置き換わるのではなく、バッテリーを効率的に冷却するための部品が必要になるほか、衝突時の火災を防ぐためにバッテリーの損傷を回

避する構造も必要になる。実際の部品を見ながら、自動車の作り方がどう変わるのかを知る良い機会になった。

もう一つは、高崎市のGメッセ群馬で開催された「ぐんまTechEX PO 2023」。県内外の企業約200社による大規模な展示商談会だ。製造業が中心の「ものづくり基盤技術」コーナーで、どんな技術や製品なのか各社にお伺いした。

技術や道員が異なる。また、精密で複雑な加工にた「ぐんまTechEX PO 2023」。県内外の企業約200社による大規模な展示商談会だ。製造業が中心の「ものづくり基盤技術」コーナーで作るのを得意とする会社もある。また、部品の仕上げとなる表面

れ、人との衝突を回避する安全技術の進歩を感じた。これからの製造業の現場では、人とロボットが隣り合って働く場面が増えていくのだろう。皆さん親切に教えて頂いて本当にありがたかった。それぞれ自社の技術や製品に誇りを持って取り組んでいる。他県からの

一つの部品を作るにしても、鉄、アルミ、チタン、マグネシウム、プラスチックなど、使う材料によって切削などの加工

加工を専門とする会社などさまざま。会場には、人が近づくと動きが遅くなったり停止するロボットが展示さ

だ。会場で頂いた名刺とパンフレットを読み返しながら、ものづくりを担う方々の技術と情熱を知ることができたことに感謝した。

肥後秀明（ひご・ひであき）

1969年生まれ

茨城県出身。東京大経済学部卒。92年に日本銀行入行後、金融機構局考査企画課長兼上席考査役、金融機構局考査運営課長兼上席考査役などを経て2022年4月から現職。

